〔江戸總鹿子六〕長崎柚餅子。ふいご焼。

〔江戸町中喰物重寶記〕壽おぼろ焼。音羽焼。小麥焼。金つばやき。白川焼。

音羽町九丁目若狹屋吉兵衛略○中
牛込神樂坂伏見屋略○中
久松町花澤屋近江
柳原新ばし鶴屋柳黛子略○下

めつた町　淺草本鳥越　ゑびすや

淺草文殊院前飯田町片町金田屋略○中
麹町三丁目橘屋佐兵衛略○中
富澤町南側和泉屋求馬略○中
本郷三丁目玉の井伊兵衛

助總麩の焼。粟の鳴門焼。玉の井焼。

〔嬉遊笑覽十上飲食〕今のよき菓子どもは、大かた昔正德五年なかりしものなり、略○中唯駄菓子はかはらず、それも今は品數許多にて枚擧に遑あらず、よからぬものを駄といふは、乘馬ならぬ駄馬より云にや、

〔奴師勞之〕安永六年丙申、日光御社參の時、道中にてみし駄菓子に五荷棒といふものあり、其頃駄菓子に達磨糖といふものに似て、一口の味ふべきものにあらず、三間梁の飴と、よき對なりと思ひしが、今度庚辰、ある友のもとより、武州忍領北秩父の邊の菓子とて、五かぼうといふものを贈りしを見しに、むかしみしよりは、形大にして、其質もまたおこし米をもてつくりたり、其形は野鄙なれど、四十年のむかしに、くらぶれば味ふべし、其頃千壽より先には、干菓子なし、駄菓子の中にも粟焼といふものなど丹綠青もて彩れり、今は左にてはあるまじ、

昔駄菓子達磨糖、安永道中滿日光、秩父長傳五荷棒、大飴猶唱三間梁、　三十棒は今の上菓子、

紅屋越後や船橋などは五十棒々々々、

〔和漢三才圖會百五造醸〕沙糖漬菓子。

沙糖漬

按蜜柑、佛手柑、天門冬、生薑、冬瓜之類、皆漬沙糖以爲菓子、然爲越數月不敗、一夜漬石灰水而洒淨